

わたしの聖戦

◎◎女性が働くことについて◎◎ 81

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

おじさんの「おばさん化」

「おばさん」の呼称には、単に「若くない」とか「中年の女性」だけではない意味を含んでいる。

概して、おばさんとは凶々しい存在である。電車の座席を目指して一目散に乗り込んでくるのもおばさんなら、車内中に響くような大声でしゃべっているのもおばさん。乗り物のなかで絶えず何かを食べているのも、まさしくおばさんである。周囲の人は、少々目の余る行為でも「おばさんだから仕方ない」と納得する。そんな独特の存在感や行動様式を含んだうえで、「おばさん」という呼び方は社会のコンセン

サスを得ているのである。しかし、中高年の女性を指した「おばさん」の生感が、「おじさん」にも見られることを最近つくづく感じている。

かつておじさんには、おばさんのような凶々しさはなかった。むしろ、わがもの顔で闊歩するおばさんたちの行動に眉をひそめ、ため息をつき、じっと耐えている風情がそこにあつた。電車の中で繰り広げられるおばさんたちの暴言や行動を見ても、われ関せずといわんばかりに、あきらめ顔で目をあらぬほうへ向ける――、これがおじさんであつた。

だが、おじさんは明らかにおばさん化している。新幹線などに乗り込むと、椅子の背もたれを乱暴に倒し、ビールを飲みほし、大きな声で携帯電話で会話を。集団になればさらに声は大きく、行動は凶々しく、3人掛けのシ

んはいた。しかし、少し前にはもつと恥じらいがあつたように思うが、だんだんそれも凶々しくなつてきて、朝からその種ものを堂々と広げて見入っているおじさんは珍しくなくなった。

「おばさん」はおばさんだから許せた。だが、お

じさんがおばさんになっていくのは、これは許せないことのように思える。

おばさんは確かに凶々しく傍若無人である。しかし、そこには生きていく「たく

ましき」がセットになつている。何があつても堂々と立ち向かつていく、いい意味での恐いもの知らずがある。おじさんがおばさん化していくことで、逆にこのたくましきは消え、男性として後退していくように見えてしまう

おばさんたちの行動に……



のだ。

若い男性が「草食系」と呼ばれる。一方で男っぽいカッコいい女性を「男前」と呼ぶのも明らかかな逆転現象である。結婚しなくてもできない若い人が増えているのは、もしかしたら男性のほうにかなりの部分で責任があるのではないだろうか。

男性の性を決定づけるY染色体の退化も問題になつている。若い女性たちが戦国武将にあこがれ「歴女」と呼ばれるような昨今の現象は、今は失われてしまった男性ならではの「何か」を武将たちに求めているのかもしれない。

おじさんたちよ、目覚めてほしい。コツコツと黙して世の中に踏ん張る姿を見せてほしい。そうでないと女性たちは安心して「おばさん」ができなくなつてしまうのだ。

イラスト・三浦義雄